

## 日本保健医療社会学会ニューズレター (No.110) 2018/8/21

### 目次

1. 第45回大会について
2. 理事会報告
3. 編集委員会報告
4. 定例研究会の案内・報告 (関東)
5. 定例研究会の案内・報告 (関西)
6. 看護・ケア研究部会報告
7. 渉外・国際交流活動の報告
8. その他
9. 編集後記

---

### 1. 第45回大会について (大会実行委員会)

第45回保健医療社会学会を2019年5月18日(土)～19日(日)に東京慈恵医科大学看護学部(国領キャンパス:調布市)で開催いたします。第45回学会は、学会設立30周年記念大会も同時に行われることから2日間全日枠で、基調講演、特別講演などプログラムを予定しています。

また、2日目には編集委員会が企画する特別シンポジウムもございます。

現在、大会に向けて、事務局一同で準備を進めているところです。会場は、都内からの利便性も高く、多くの皆様のご参加をお待ちしております。

### 2. 理事会報告 (松繁理事)

日時:2018年8月1日(木) 14:00～17:00

会場:(株)国際文献社 アカデミーセンター 4階会議室

出席者:檜田会長、松繁理事、朝倉理事、三井理事、田代理事、小澤理事、伊藤理事、林理事、石川理事、事務局 平野(記 国際文献社)

欠席者:西村理事

#### 1) 第44回大会報告・会計報告 (田代理事・小澤理事・伊藤理事・林理事)

田代理事より添付資料次第の通り、第44回大会の会計報告があった。今後、会場使用料が発生する場合は学会本体口座より支出することが提案され、承認された。

#### 2) 第45回大会及び第46回大会の準備状況の報告 (田代理事・小澤理事・伊藤理事・林理事)

田代理事より添付資料次第の通り、第45回大会の準備状況が伝えられた。大会名に30周年記念大会の付記をすることが確認された。また学会に基金を寄付して頂いた園田元会長の写真を展示するような形で、30周年記念ブースを設置してはどうかとの意見があり、ブースの設置可能性を大会校に確かめることとした。

#### 3) 編集委員会報告 (朝倉理事・三井理事)

朝倉理事より29巻1号や30巻1号の発刊予定、内容について報告があった。

規定類の変更に関しては論文投稿に関する誓約書の提出方法等を総会時原案から修正し、サイン後のものをPDF化して、電子メールの添付ファイルで提出してもらう方法について検討した。

第45回大会時に開催する編集委員会企画シンポジウムについては、研究活動委員会と連携を取り、進めていくこととした。

4) 定例研究会の報告(関東) (田代理事・小澤理事)

小澤理事より、10月14日に関東定例研究会を開催するとの報告があった。テーマの確定後、会員向けにメール配信することとした。

2回目の関東定例研究会は看護・ケア研究部会と共同企画とし、過去の論集を振り返る内容で検討していることが伝えられた。

5) 定例研究会の報告(関西) (伊藤理事・林理事)

伊藤理事より、9月2日に関西定例研究会を開催するとの報告があった。開催まであと1か月程であることから、早々に会員向けにメール配信することとした。

6) 看護・ケア研究部会報告 (三井理事)

西村理事が欠席の為、三井理事より資料添付次第の通り看護・ケア研究部会2018年度総会の報告があった。7月の定例会にてスカイプでの参加を試験的に導入したことが伝えられた。

7) 渉外・国際交流活動報告 (石川理事)

石川理事より5月の大会時に国際交流委員会を開催したとの報告があった。金子委員と孫委員がISAトロント大会等の国際大会の報告記を執筆することが伝えられ、後日ホームページに掲載することとした。

8) ニューズレター110号の配信について (西村理事・榎田会長代読)

西村理事が欠席の為、榎田会長より添付資料次第の通りニューズレター110号の配信内容について伝えられ、8月10日頃までに原稿を提出することとなった。

9) 入退会者の承認について (松繁理事)

松繁総務理事より新入会7名の承認依頼があり、承認された。また退会者2名、逝去1名の報告があった。

10) 『保健医療社会学論集』のアーカイブ化について (松繁理事)

松繁総務理事より1~10号の論集アーカイブ化について欠号していた9号を入手した為、今後J-STAGEに掲載することが伝えられた。

11) 「保健医療社会学会を学びたいひとへ」コーナー開設の提案とその準備の進め方について (松繁理事・榎田会長)

松繁理事より、保健医療社会学を学べる講座情報を学会ホームページに掲載することが提案された。講座情報よりも地区別の研究者リストがある方が便利との意見があり、どのように情報を集めるか、どこまでの情報を掲載するか等を検討し、次回総会に諮ることとした。

12) 「福祉社会学会」等との連携・協力関係について (榎田会長)

榎田会長より、第45回大会シンポジウムにて福祉社会学会と連携することが伝えられた。福祉社会学会の2019年度大会にて学会から登壇者を出すことについて、田代理事が福祉社会学会との次回会合の際にテーマや他のシンポジスト等を確認し、検討することとなった。

13) 評議員の委員会委員兼任を認めるか否かについて

榎田会長より評議員が委員会委員を兼任することについて提案され、承認された。

14) 事務局業務の相見積りのスケジュール及び担当者について (榎田会長・松繁理事)

松繁理事より、事務局業務委託先の相見積りに関するプランが示された。安定性や信頼性などを総合的に考慮した上で決定したほうが良いとの意見があった。他学会の状況等を確認しながら、進め方について続けて検討することとした。

15) その他

三井理事よりメールで査読依頼をする際にメールが不達になることが多いことから最新のメールアドレスを把握すべきとの意見があった。会員全員に論集送付時に案内文書を同封する方法と不達者及びアドレス未登録者へハガキで案内する方法が提案され、今回はハガキで案内をすることとし、回答が少ない場合には全会員向けの案内を検討することとなった。

松繁総務理事より、GEAHSSより調査依頼があったことが伝えられた。GEAHSSに加盟したことを記載し、調査依頼のメールを会員向けに配信することとした。

16) 次回の理事会日程について

次回理事会については、中村大会長と佐藤大会事務局長を招いて12月頃開催で調整を行うこととなった。

### 3. 編集委員会報告 (朝倉理事)

2018年5月の総会でご承認いただいた通り、2018年9月1日より、「日本保健医療社会学会編集委員会規程施行細則」、「『保健医療社会学論集』投稿規程」の一部を改訂します。併せて、「論文投稿に関する誓約書」、「『保健医療社会学論集』投稿受付から掲載までの手順」、「投稿論文チェックシート」の一部を変更いたします。

改訂点及び変更点は以下の通りとなります。

- ・これまで論文投稿の際は、郵便とメール添付の両方で原稿を送る必要がありましたが、2018年9月からはメール添付のみで投稿できるようになりました。
- ・「論文投稿に関する誓約書」もメール添付のみで提出できるようになりました。誓約書は、全著者が自署した後、PDF化しメール添付でご提出ください。

なお、2018年5月の総会では、「論文投稿に関する誓約書」は従来通り、書留郵便等での提出とすることでご承認いただきました。しかし、さらなる事務手続きの簡略化を実現するため、2018年8月1日の理事会で「論文投稿に関する誓約書」もメール添付のみで提出することに決定したことを、この場を借りて報告させていただきます。

#### 4. 定例研究会の案内・報告 (関東) (小澤理事)

2018年第1回関東定例会は、「ナラティブ研究の有効性と課題ーナラティブソーシャルワークをもとに考えるー」をテーマとして、下記の通り開催いたします。

これまでの実証的な研究は、データを構造的にとらえて整理する量的なリサーチ、インタビューデータから概念を抽出しながら構造化していく質的なリサーチの2つの大きな研究潮流がありました。これに対して、ナラティブ研究は、研究協力者の語り・ストーリーを重視しながら、内面を掘り下げて分析する研究方法として着目されてきました。ただし、ナラティブ研究が保健・医療・看護・福祉といった支援を前提とする分野でどのような有効性と課題があるのかについてはこれまで十分に議論されてきませんでした。

今回は、ナラティブ研究をソーシャルワークに応用しながら、研究を進めている荒井浩道先生(駒澤大学・教授)に、ナラティブ研究の有効性と課題についてお話をさせていただきます。この企画を通して、保健医療社会学におけるナラティブ研究のあり方に関しても議論を深めたいと思います。

講師：荒井 浩道 氏 (駒澤大学文学部)

※後半、参加者とのナラティブ研究をめぐる意見交換

司会 小澤 温 氏 (筑波大学・人間系)

日時：2018年10月14日(日) 14時00分～16時00分

場所：筑波大学・東京キャンパス 337教室(3階)

(東京都文京区大塚3-29-1)

茗荷谷駅徒歩5分

※当日参加可、参加費無料

問い合わせ先：日本保健医療社会学会・研究活動 担当理事

小澤 温 ozawa-a [a] human.tsukuba.ac.jp [a] を@に変えてください。

#### 5. 定例研究会の案内・報告 (関西) (伊藤理事)

下記の通り、2018年度第1回関西定例研究会を開催いたします。皆様のご参加を、お待ちしております。

テーマ：「経験の固有性を理解するー『遺伝学の知識と病いの語り』を中心に」

話題提供者：前田 泰樹 氏 (立教大学社会学部社会学科)

日時：2018年9月2日(日) 14時00分～16時00分

場所：キャンパスプラザ京都第3演習室

(京都市下京区西洞院通塩小路下る東塩小路町939)

京都市営地下鉄烏丸線、近鉄京都線、JR各線「京都駅」下車、徒歩5分

前田泰樹氏(立教大学社会学部)は、今年の第44回大会(星槎道都大学)での大会での30周年記念プレシンポジウム「保健医療社会学における方法論の未来」において、「保健医療社会学におけるエスノメソドロジー・会話分析の現在」と題し、登壇されたシンポジストの一人です。

今回の関西定例研究会では、大会シンポジウムにおいて出版予定として紹介されていた『遺伝学の知識と病いの語り』を中心にご報告いただきます。

この著作は、常染色体優性多発性嚢胞腎 (ADPKD) という単一遺伝子疾患の患者や家族、またその治療やケアにかかわる医療者たちを対象に、2003年から継続的にインタビューを行ってきた成果をまとめたものです。「遺伝的知識がある時代の社会にどのようなインパクトを与え、それに対して関係する人々がいかにそれを理解しつつ対応してきたのかという人びとの方法の歴史を、経験者の言葉を丁寧にすくい上げること」によってまとめられた当該研究を題材に、エスノメソドロジーや現象学的な質的研究の考え方についても、話題提供をしていただく予定です。

ご参加のみなさまとの意見交換を通し、質的研究法の理解や方法論的な深化の機会となる研究会にしていきたいと考えています。非学会員も参加可です。

ご関心のある方の多数のご参加をお待ちしています。

※当日参加可、参加費無料

問い合わせ先：日本保健医療社会学会・研究活動 担当理事

伊藤 美樹子 itmkk [a] belle.shiga-med.ac.jp [a] を@に変えてください。

## 6. 看護・ケア研究部会報告 (西村理事)

9月例会を下記の通り開催します。また、今年度から遠隔地の部会員向けにテレビ会議システムの導入を試みています。

日時：2018年9月15日(土) 13時30分～17時00分

場所：東京医療保健大学船橋キャンパス (西船橋駅徒歩12分) 225教室

報告者1：樋口 佳耶さん

「特定行為に係る看護師の研修」修了生が、臨床現場に与える影響 (師長がとらえる病棟の変化) (仮)

報告者2：三枝 奈都子さん

「富山型デイサービス」における在宅生活支援の可能性と陥穽 (仮)

## 7. 渉外・国際交流活動の報告 (石川理事)

国際社会学会 (ISA) トロント大会が7月15～21日に開催されました。参加した委員からの報告を本NLのその他で紹介しております。後日ホームページにも掲載予定です。また、分科会 RC15 (Sociology of Health) の次期会長に、本学会員の細田満和子先生 (星槎大学) が就任されました。

国際交流委員会では、保健医療社会学関連分野の海外研究者の来日情報を随時募集しております。学会員が参加可能なセミナーや、企画を共催させていただける機会がありましたら、ぜひお知らせください。

## 8. その他

### 1) 「保健医療社会学会を学びたいひとへ」コーナー開設へ向けて

現在理事会では、保健医療社会学を学ぼうと考えている方々への情報提供の充実について検討しております。一つのプランとして、保健医療社会学の講座情報等を学会ホームページに掲載することを検討しています。学会員の皆様から、どのように情報を集めるか、どこまでの情報を掲

載するか等を検討し、次回総会に諮る予定です。

## 2) 人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会への加盟について

人文社会科学分野での若手・女性研究者支援とともに、研究分野を超えた連携のもとで人文社会系の学術の発展を目指す「人文社会科学系学協会における男女共同参画推進連絡会」(Gender Equality Association for Humanities and Social Sciences: GEAHSS [略称: ギース])へ当学会も加盟いたしました。

GEAHSSから、仕事内容、仕事環境、家庭との両立等に関する調査への協力依頼が当学会にも来ています。別途メーリングリストで調査協力のお願ひのご連絡を差し上げますので、ご協力いただけましたら幸いに存じます。

## 3) ISA トロント大会参加報告(金子雅彦、国際交流委員会・防衛医科大学校医学教育部)

2018年7月15~21日、カナダのトロントで第19回国際社会学会(ISA)世界社会学会議が開催された。会場のメトロ・トロント・コンベンション・センターはユニオン駅に直結していて、観光スポットであるCNタワーの隣である。今回の会議には101カ国から5000人以上が参加した。

日本保健医療社会学会が主に関係するRC15(Research Committee 15: Sociology of Health)での様子を中心に紹介する。RC15はISAの全RCの中でも会員数はかなり多い部類に入る(200人以上)。またRC15における日本人会員数はアメリカに次いで2番目に多い(25人以上)。日本人研究者が企画や発表を行ったセッションは16~21日の間毎日必ず1つはあった(15日はISA会長主催セッションのみ)。時間帯が重ならない限りできるだけそうしたセッションに参加した。セッション数は4つで、テーマは移民の健康、ヘルスケアのガバナンス、死や終末期、病をめぐる言説だった。発表数は報告者が把握している限り15報告あった。テーマは患者ないし住民参加、医療制度、医療化・脱医療化、死や終末期をめぐる諸問題、健康増進、患者や弱者の語りや体験記など多岐にわたっていた。基本的に発表形式には、口頭発表(oral presentation)とペーパー配布(distributed paper)がある。ただし、ISA大会に参加したことのある人はご存知だと思うが、ペーパー配布でも数分間の口頭発表の機会が与えられることがある。今回も報告者を含め、多くのセッションでペーパー配布の人も時間は短いが口頭発表していた。

朝倉隆司監事はRC49(Sociology of Mental Health and Illness)の会長を務めていて、今回のトロント大会でも多くのセッションを企画していた。報告者はそのうちの1つのセッション(自殺行動やうつがテーマ)に参加した。

個人的には、まずラウンドテーブルで発表した。RC15のセッションは報告数が多いため、一般的なセッションでは、発表者も質問者も早口になりやすい。それに比べると、ラウンドテーブルは対面方式であり、時間の流れがゆったりとしていた。発表の途中で質問されたりすることはあるが、参加者の間でなごやかな空気が醸成されやすいと感じた。またRC25(Language and Society)とのジョイント・セッションを企画した。最終日の21日で大きなトランクを抱えながら会場内を移動する人も散見される中、セッション関係者以外の参加者も10人以上いて、質疑応答も活発に行われた。セッションを無事終えることができ、安堵した。また、企画者側の苦勞も今回改めて知ることができた。

細田満和子会員が2018年から2022年までRC15会長を務めることがビジネスミーティングで報告された。2020年7月14~18日にブラジルのポルト・アレグレで第4回ISA社会学フォーラ

ムが、2022年7月24～31日にオーストラリアのメルボルンで第20回ISA世界社会学会議が開催される予定である。日本人研究者の積極的参加が近年目立っており、国際発信が活発になっていると感じている。この動きが今後も進展していくことが期待される。

## 9. 編集後記 (西村理事)

- ・ニューズレターvol.110は、主に8月の理事会および大会で議論された内容を掲載いたしました。
- ・日本保健医療社会学会ニューズレターは第92号からはPDFファイルのメールマガジン形式で配信しています。メールマガジンの文字が読めない場合などの受信に問題がある場合は、恐れ入りますが、日本保健医療社会学会事務局まで御連絡ください。

<http://square.umin.ac.jp/medsocio/index.htm>

発行：日本保健医療社会学会

編集：広報担当 (西村ユミ)

学会事務局：東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター

[jshms-office@bunken.co.jp](mailto:jshms-office@bunken.co.jp)

TEL：03(5389)0237